

## (西暦) 2021 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 医療機関におけるシミュレーション教育の実態調査)

医療機関におけるシミュレーション教育の実態調査

学位の種類: 修士 (看護学)

東京都立大学大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号: 20894706

氏名: 繁永 元樹

(指導教員名: 織井優貴子)

### 【研究目的】

本研究では、第一に、医療機関で看護部や看護教育委員会等が主体となって実施する集合教育におけるシミュレーション教育の目的を明らかにすることとした。次にシミュレーション教育の段階的な教育内容を明らかにし、シミュレーション教育を実施していない医療機関のその理由と検討について明確にすることとした。それらの結果から、看護継続教育における効果的なシミュレーション教育への示唆を得ることを目的とした。

### 【研究方法】

全国の医療機関 1,172 の医療機関を対象に郵送法による質問紙調査を行った。医療機関でのシミュレーション教育の実施内容を把握するため、3つの病院区分に分類した。質問紙の構成は医療機関の背景、回答者である教育担当者の考え、集合教育でのシミュレーション教育の実施内容、シミュレーション教育未実施機関の理由とした。具体的には、基本属性 12 項目とシミュレーションの種類 (タスクトレーニング 10 項目、アルゴリズムトレーニング 1 項目、シチュエーションベースドトレーニング 7 項目、e ラーニングや机上での事例展開を使用したシミュレーション教育 8 項目) で構成した。

### 【結果】

1,172 施設に郵送し、439 の医療機関の回答を得た (回収率 37.5%)。その結果、シミュレーション教育の実施率は 82.6%であった。実施目的は、「看護実践のイメージ化の促進」「看護技術、アセスメント能力の向上の促進」「患者への対応の理解の促進」が高いことから、本来の目的や有用性に着目し実施していることがわかった。

集合教育におけるシミュレーション教育では、ラダーレベル I のタスクトレーニングによる「注射」の実施率がどの病院区分でも約 80%であった。

シミュレーション教育未実施機関では、それを実施するうえで、教育者、教材、設備・空間、時間、情報の確保が困難であると回答した。

### 【考察】

看護技術の「注射」は身体侵襲が大きく、臨床でも実践の機会が多い看護技術であることから、安全な環境下で技術修得ができるタスクトレーニングを選択し、ラダーレベル I に実施していることが考えられた。その他のラダーレベルにおいては、「BLS」の実施率が高かった。看護職員は急変に遭遇することも多いことから、すべてのラダーレベルにおいて BLS の実施率も高いのではないかと考えられた。

シミュレーション教育の実施は、医療機関の規模や機能、さらには看護体制が影響していることが考えられた。シミュレーション教育を実施していない医療機関の 50%が今後も実施の検討をしていないとする結果から、その背景について明らかにしていく必要があると考える。

#### 【結論】

1. 研究協力が得られた医療機関では、「看護実践のイメージ化の促進」「看護技術、アセスメント能力の向上の促進」「患者への対応の理解の促進」を目的とし、シミュレーション教育を実施していた。
2. 集合教育におけるシミュレーションでは、ラダーレベル I を対象としたタスクトレーニングとしての「注射」の項目が、どの病院区分においても 80% 近い実施率であった。その他のラダーレベルでは BLS の実施率が高かった。
3. シミュレーション教育を実施していない医療機関の教育担当者は、シミュレーション教育を実施する上で、「教育者の育成・確保が困難である」「教材の作成や確保が困難である」、「設備や空間の確保が困難である」「時間の確保が困難である」「情報の入手が困難である」に対し、教育担当者の 60% 以上が「そう思う~強くそう思う」と回答した。
4. 全国の医療機関におけるシミュレーション教育の内容を明らかにする資料として示唆された。